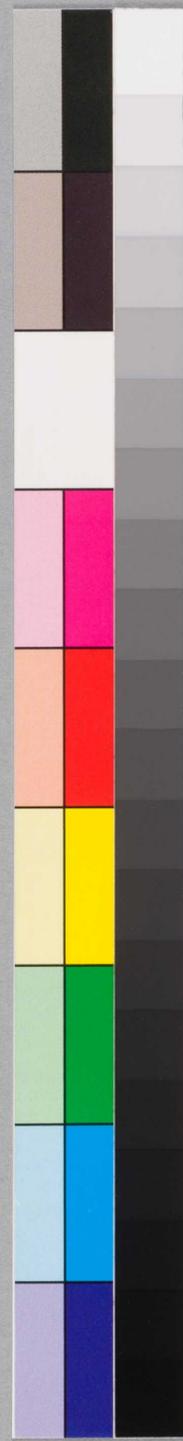


養生訓

三



養生訓卷之三

飲食上

食の要なり

飲食は

人の身は元氣を天賦よりうけて生るとれを飲食は
かゝれを養ふ事なり命をたもつるがためなり
命乃中も飲食は生命の基なり飲食の善
ハ人生命の第一の補劑なり
飲食ハ人の大欲なり口腹の好むを食ふ事
然るに過ぎたりれば節を以て必脾胃
を傷む事あり病を生ず命を失ふ事あり
生るとれを養ふ事なり命をたもつるがためなり
命乃中も飲食は生命の基なり飲食の善
ハ人生命の第一の補劑なり
飲食ハ人の大欲なり口腹の好むを食ふ事
然るに過ぎたりれば節を以て必脾胃
を傷む事あり病を生ず命を失ふ事あり

養生訓

三

又飽^わふ湯^ゆの後の禱^{たう}ありかた^り欲^ほと^うゆ^せ
 ははの禱^{たう}ありか^らく^らい^て味^{あじ}の^よれ^とま^れの^まく
 の^まく^らい^てあ^らた^らる^よま^ま樂^{たの}回^かく^且後^の
 災^{わざ}なり^ある^事十分^によ^うて^必ず^とら^ひと^する
 飲食^{おんじ}を^使ふ^をい^じべ^し又^初は^情の^必は^は禱^{たう}あり^し
 味^{あじ}偏^{ひと}後^のと^一味^{あじ}と^多く^食さ^すと^云甘^{あま}と^物多^くれ^は
 後^のら^いつ^し心^{こころ}辛^{から}と^物と^れて^氣と^りて^動る^り痿^しと
 生^なし^眼あり^し鹹^{しん}と^物多^くれ^は血^ちと^りて^のん^とり
 と^ら湯^ゆあり^多く^らぬ^濕と^生し^し脾胃^いと^やる^者と
 物^{もの}多^くれ^は脾胃^いの^生氣^きと^損と^後と^物多^くれ^は

氣^きら^まら^み味^{あじ}と^多く^てか^げ食^を病^を生^ます^法
 肉^{にく}と^滋養^{じやう}と^同物^を使^はけ^て食^をと^れば^滯と
 て^害あり
 食^をい^やし^か物^をり^身と^害す^物と^らひ^て身^を
 と^りて^いふ^すぬ^ふ凡^た食^をと^れば^性と^りて^身を^い
 な^すよ^ま差^をら^る物^をつ^のよ^まら^んで^食ふ^べし^意が^く
 して^換わ^る物^を味^{あじ}と^りて^とら^ひぬ^らぬ^法温^ぬ禱^{たう}
 して^寒と^あら^る物^を差^をら^り生^を冷^やして^下氣^を
 ぬ^らぎ^腹と^る物^を差^をら^る熱^ある^物を^換わ^り
 飯^いと^く人^をい^かす^人と^害す^飯と^いふ

らても小つて痛くなる

酒食をとりたりをなほ酒食の消化しつゝ
茶を月いふれど酒食の消化しつゝ
飲肉は亂入しわきをわけて味乾と攻傷
たふれと強きとわけて防戦ありわら
お死せしめ敵よりつゝ茶を月て食を消化
おまごつ後中と敵身方此戦場とす
とる取の酒食敵とわけてつゝ後中
なつづ吾より取つゝ茶を月と
おまごつ敵と身方つゝ後中

我にて敵を換しやつる事
引へて我と人よりおはせ
酒食とつゝつゝつゝつゝつゝ
を月てつゝ後中と敵身方此
をまごつてつゝつゝつゝ

食をとりつゝ思わたりつゝ
つゝつゝつゝつゝつゝつゝ
つゝつゝつゝつゝつゝつゝ
つゝつゝつゝつゝつゝつゝ
つゝつゝつゝつゝつゝつゝ
つゝつゝつゝつゝつゝつゝ

ろむ者も其固愚をふまぐり二よひ食りて養生
 勸勞して倦り出せり若し其いかりをばするを
 うけんは其の料は安んずて病をうくる事少
 しく其を樂しむべし二よひは亦徳の義か
 く是れ助け民を治む功ありては其味乃ち
 甜うらやまき志一曰よひ世よれり其一人
 多し一粥一飯乃ち食しとわくゆあり或うそ死せり
 若し其これ其穀とわくまてうひ飢饉の甚は
 是れ大なる幸よわくもやよふと古の時分をへしと
 古よひ穀をくして事本に實と根葉は食しと飢

をすぬらうらま後み穀出ずるといふこと火食を
 以て食しとて其食せば生ずるを食りて味あり
 腸胃とてこつたぐり今白飯をやらうらふ黄てり
 わまに食し又わのもの有り釘ありて物々食よ
 わるは且酒醴ありて心所^{たの}まし其氣血を助く
 されど物々食とていひ思ふ肉一二かりとを
 うらうらくといひわらして病をうくる事少
 し亦其中に二一は思ふ^き膳^ちなり其^いた
 よ紀と傳ふよ其食時乃ち穀はうらも同くこと
 夕食ハ朝食より滞やとく消化しとて晩食ハ

かきざらしうろく漢と物成らざるは晩食は釘
 此教多き六宝しうび釘多く食ふべし魚鳥
 芥子の味は清くわろくまそきま物々食ふ所
 菜乾と葛藤胡椒荳蔻菜芋根葱姑の
 物こ清くやろく乳とさう物晩食は多く食ふべ
 らば食はざるはむし

飯のこ多し魚はわづれ肉のやろくさう文のわし物
 臭たわし物よをむなとりしかる物わろくす
 物夕の食時よわしとんぶくふくは又よろくして
 軍も熱せば或いまごせさう物指とかりとり

てめつらとらふ物又時とさうりさきつ物皆
 時がくはら物くらふをくびも清淨よのころま
 聖人の食し法はさう物わり聖人身体倍々
 養生れ一申かり法ととべし又肉は多たれど飯
 の動よこしめばととり肉と多く食ふべしす
 食は飯成中とれ何の食も飯より多る物べし
 飲食の内飯は飽されど飢を助けどわのものを
 飯成和せんためなり肉はあらずしてを不足は
 からしめて食成とめ動成事あへし菜の穀
 肉の多しとら物けて消化しやろく皆を食

ちひしき物より多量なる物を食ふは
今更にていづる塩酒糟油酢麹（そ）生薑（ま）胡椒（こ）
芥子山椒（か）を多く食ふは胃腸を損傷し
とれどその毒は制する也只その味は
とりてよくん事をいひしむ

飲食の欲い弱くは胃腸を損傷し人
多し況んば人の味多しは胃腸を
損傷し甚くは申すは後を氣にして男女の
久欲いやしく養ふは飲食の欲い弱
を人の脾氣より成る飲食より成る

老人乃に是れ不病候はけし死する人多くは
法乃に食物をとりしき生氣ありは食物より成る

くして臭ありくは生氣ありは食物より成る
とけり物は脾胃の弱くは補とて多量に食ふ
をば理ありはとけり物は多量に食ふ
らば好まざる物をからず好むは食物を
りて好むは

湯に物を入りしは物もよくわらう物味もよく物性
よく物けぬ物成る人々を食ふべし善ありて換
かへるもよきと云ふ物食ふはよくははし事ありし
書ゆふもかゝり

養病虚弱の人につゆよ魚を此肉を味よくしてか
つ食ふべし参茸の補薬も中々これと性よく生魚
を煮炙よくとべし塩つけて一飯日さるるを
久しこれ味よくは且滞りやと生魚の内敗
よつけ方を炙炙て食ふもよく夏月久し
たをよび

脾虚の人ハ生魚とわがりと食するよ宜し煮たる
よりつるを小魚ハ煮て食するよ宜し大なる生
魚ハわがりと食し或煮湯を熱くして生薑こ
びやく加へ浸し食されば善あり

大魚ハ小魚より油多かつるやと脾虚の人ハ
多食と云ふもむと薄く切て食ははつるよび大なる
鯉附大よ切或全身と煮つるハ氣味よくとす
く切べし蘿蔔胡蘿蔔凡菘根もよき大よ葉
く切て煮たるはつるやと薄く切て煮るべし

生魚味よく潤て食されは生氣わらふ故よく消化

味劣性和めて腸胃を補ふたまりと蓄油のそ
ち性どろとやり世厚とる人よ宜しうとど那多
食ふべし脾胃を宜しうとど那多と色積聚のそ
ちか食ふべし磁石を多く食ふべしとど

脾胃虚して生葉をひくと乾葉を煮食ふべし
冬月菹藹とうと切て生葉をうと切て乾と連
根牛蒡葛薯葛うどの根の根の根と切て
煮てやと推葷松露石菴と乾するや松葷
渣漬と一壺盧切て焙よ一煎はけりせけ
しかりとるは執膏とよ一白茸乃莖熱湯と

くけ目よやとを皆虚人の食とるよ宜し一枸杞
加苾菊薤薤鼓子花葉とくは葉とじり煮
てかりたるとわの物と一味劣あまわの物と
花はけりてやと皆虚人よ宜し一を葉とよ
海藻の冷性也都人虚人よ宜し一次昆布多
食へる氣とあま

食物の美味とらんぬらぬらとる物の香とあま
くりて害とわらたるとい我うたれよとじり
あらたると食かりとるとんよらぬらとる害と
なると地の食ふべしと又美味とらんぬらとる

食ひます消化せざるとして食ふ事せぬまはの食とて
 うけつてそののておなはる物けつるうらと候
 とを食ふありてあは候とてお僕等どもあ
 へて食ひしむに候る食せとては候し他人に答
 席より候るも心ゆくまはる物らうべうは又味ゆ
 るありて多く食ふあり

凡食飲せしむるゆの事へて言ふあり候飲食と
 時須臾の另飲せぬあり又分量の多きよは
 ども飯の只二三口釘の只一二杯の飲とて多く食
 せられは害あり酒も亦多し多飲の人とてか
 て候とてこれの害あり

脾胃のこのじとてよく物を煮りて好む物を食
 ころよく物に食とてよく脾胃の好む物を食
 ころよく物やまうる物よく熟しころ物ねら
 物味清くころ物よえとてかの新又熟しころ物
 よく物新しころ物煮ころ物性平和なる物に
 編あつころ物も皆脾胃の好む物なり是脾胃の害
 とすころ物なり

脾胃のよく物に食しころ物冷なる物とて物ねら
 物けつるうらと候る物とて物若くしてよく熟せ

ざる物煮てして飯を煮つる物煮て久しくたう
 どの菓のいまし熱せざる物あつて心味を失つる
 物又味の偏なり物あつて多うして味あつては
 皆脾胃をこらふ物と云ふは脾胃を損ふと云ふ
 危うきこと

酒食をとり或は時あつて飲食し生冷の物性わ
 しく病成るは物と云ひて是れは泄瀉をい必胃
 氣なる久しくくさつては元氣衰へて短命なり
 此れはじい

塩と酢と辛と物といは三味と云く食ふべし此れ三味と

多くららひ湯をこて湯を多くららひ湯をこし
 脾をやある湯茶葉多きのじいづらば此れ三味を
 ららひて大よららひは葛れ粉う天竺粉を熱湯また
 てのんで湯をこてむく多く湯をのじ申と云ん
 うたあたり葛れそのねら湯を熱と云く
 酒食のな餅飽せと天を併て酒食の氣をこく
 一もまの面及脈脈となして食氣をあらうと云
 けりも人の食後より心筋を力と習ひるは
 けり歩むと云へ労働と云ふべしむ人も
 氣難くなり少労働と云へ案よりなり

乃一主故含滞を消一氣をめぐると兼外とよ
 ぐ一卒中風うして獲合固延齡丹をくよふ
 ぐ一故あゝ又か中一と含滞をやくよふぐす
 祿もくも湯をくよふぐと氣血塞りて死
 と一五日含滞あゝと一は病の含傷あり
 世人多くあやうして卒中風とと一活意せむ
 うえて含一かゝりて飲じよ飢渴よまうせて一耐
 よ多く飲食とれど飽^ぞはして脾胃をやかり元
 氣^ぞをこよ飢渴の耐^ぞじへ一又飲食いす
 消化せむらよ又やうこよ一よく飲食とれど滞を

て害とありよく消化して後飲食をぬむ時の含
 ぶる一飲むとれど飲食皆害とたり
 田村老幼とも一あてり物くらよぐ一殊よ五月の
 伏^お陰^う内^ちありまよく暑^あたり人^をあ^らる物^をくよ
 ぶ^らけ^し生^か冷^やと食^をと^らぶ^ら滞^をやく^は泄^を一や
 ぶ^らけ^し生^かあ^らま^らく^飲べ^らる^べし
 夏月^く瓜^か菓^{くわ}生^{せい}菜^{さい}多^た食^くひ^は冷^れ麪^{めん}と^は一食^を一冷^や水
 と^は多^く飲^めむ^は秋^あ必^ひ瘧^{せつ}痢^りと^は病^をじ^は凡^ふ病^びの^をな^す
 して^はい^はら^るべ^しと^は一^はじ^らる^べ
 食^はは^ら湯^ゆ茶^ちと^は一^は口^く申^まは^らく^は牙

湯より煮ゆれば物乾しきる牙^ダ救^クりては事と
 月ひと夜ハ過ずる諸薬は口^クをくべし牙^ダ齒^シ
 固よりのほどとて中下の茶と月^{ツキ}もべし毛^モ東^{トウ}
 散^{サン}り後^ゴかり
 人化^ニ脚^{キョウ}よゆて水^{ミヅ}をとりてみよ服^{クハ}せばうら
 幸^{サイ}あり先^マ豆腐^{トフ}を食^クふ脾^ヒ胃^イ潤^{ジュン}やう毛^モ何^{ナニ}珠^{ジュ}
 り食物^{シヨク}なま乃^ノは^ハは^ハなり
 山中^{シヤウ}の肉^{ニク}食^クりて病^{ヤメ}とくや命^{イノチ}を海^{ウミ}邊^ヘ
 魚^{イサ}肉^{ニク}多^タく^ク里^リよと^トし^シ人^{ヒト}の病^{ヤメ}多^タく^ク命^{イノチ}短^{ミダ}し^シと
 命^{イノチ}方^{カタ}よ^ヨなり

粥^{カウ}を温^ユよや^ヤふ^フと食^クハ腸^{チヤウ}胃^イをや
 な^ナし^シ身^ミをわ^ワく^ク水^{ミヅ}液^{エキ}を^シ生^シ月^{ツキ}む^ム毛^モ張^カ
 来^キつ^ツ統^{トウ}也^ヤ
 生^{シヨウ}薑^{キヤウ}胡^コ椒^{カウ}山^{サン}椒^{カウ}蓼^{リョウ}些^{シヤ}薑^{キヤウ}生^{シヨウ}蒜^{サン}生^{シヨウ}葱^{ソウ}心^{シン}を^シ食^クの
 毒^{ドク}氣^キを^シ物^{モノ}け^ケ魚^{イサ}毒^{ドク}を^シ去^クり食^ク氣^キ多^タく
 ら^ラと^トた^タら^ラよ^ヨま^マ食^クあ^アよ^ヨお^オ胃^イく^クう^ウう^ウ物^{モノ}を^シか^カつ^ツか^カへ
 て^テ毒^{ドク}を^シ殺^スら^ラへ^ヘ多^タく^ク食^クを^シべ^ベう^ウ次^ジ辛^{シン}を^シ物^{モノ}ま^マけ
 せ^セハ^ハ氣^キを^シな^ナら^ラう^ウと^ト升^{シヨウ}血^{ケツ}液^{エキ}を^シな^ナら^ラう^ウ
 約^{ヤク}夕^{シヨク}飯^{ハン}を^シ食^クむ^ムと^トに^ニ物^{モノ}一^{イツ}碗^{ワン}の^ノ羹^{キヤウ}を^シ食^クし^シ
 飯^{ハン}を^シ食^クせ^セら^ラ飯^{ハン}の^ノ味^ミを^シよく^ク知^チり^リて^テ飯^{ハン}乃^ノ味^ミよ^ヨ

好よぬ味乃釘を食して氣味甚なるべし初より
 釘を中ほどえ食へハ飯の味を失ひ又飯又釘を食
 ハ釘多うもしてたりやうも是方と甚くすまわし
 くて又寒よあつよも海し魚も菓蔬乃釘を多
 食もどして飯の味はもろもろと知つて一菓肉多
 くらへハ飯のよぬ味はあつて又氏々釘肉とりく
 して飯と善くむり食ふは、飯の味よく食滞乃
 害なり
 外よりきて食滞乃疔瘡をさうべし少清等乃菓をのび
 たり未用して瘡のしるふあさるはむとらん

日終り時益乃有熱ん食ふべし日終り時益食ふ
 食はうら宜し

晩食ハ約食よりかくとべし釘肉もかこし宜し
 一切乃煮たる物よく熟して菓物を食ふべしこころ
 物未熟物煮して釘を失つる物はよいかはる物
 食ふなうら宜し

我ら家少ハ飲食乃甚情とやう化の餐席ありて
 ハ菓酒生熟の甚我らんよりかひほど釘品多く過
 やし客とかりてハ好し飲食は宜し
 飯はよかりさとしらう宜し又飯はへうと又馬

養生訓

紙を色をうすくすよのかり険路よよるべからず

養生訓卷第三終

